



ミツバチ？あれ、マルハナバチだ！



よこやま じゅん
横山潤
山形大学教授

花に寄ってくるハチというとミツバチを連想する方が多いかもしれません。ミツバチに比べて大きくまるまるとして全身が毛むくじゃらなマルハナバチもたくさんいます。花が咲き乱れる春、彼らの行動を観察してみましょう。

マルハナバチとミツバチは同じ仲間（ミツバチ科）で、女王蜂を中心とする多くの働き蜂からなる巣（コロニー）をつくる点は似ています。花から餌（蜜や花粉）を集めて生活している点も同じです。しかし、ミツバチはダンスなどで情報を伝え、みんなで餌を集めるのに対しても、マルハナバチは一頭一頭がそれぞれ餌を集めて巣に持ち帰ります。ミツバチの巣は数年にわたって使われますが、マルハナバチの巣は長くても春から晚秋までしか使われず、その巣の女王は秋までに死んでしまいます。女王が死ぬ前に新しい女王が生まれ、雄蜂と交尾したあと、土の中でも単独で冬を越します。

春はマルハナバチの女王が冬眠から目覚めて活動を始める時期です。最初は地面すれすれに飛んで、時々穴に潜り込みながら、ネズミの古巣など巣をつくるのに適当な広さのある穴を探します（自分で穴は掘りません）。お腹が空くと近くに咲いていた花を訪れて蜜を吸っていきます。やがて巣の場所が決まるとき、卵を産みます。この時期になると、女王は自分自身だけでなく、子どもたちのためにせつせと餌を探りに花に訪れる姿が観察されます。

マルハナバチとミツバチは同じ仲間（ミツバチ科）で、女王蜂を中心とする多くの働き蜂からなる巣（コロニー）をつくる点は似ています。花から餌（蜜や花粉）を集めて生活している点も同じです。しかし、ミツバチはダンスなどで情報を伝え、みんなで餌を集めるのに対しても、マルハナバチは一頭一頭がそれぞれ餌を集めて巣に持ち帰ります。ミツバチの巣は数年にわたって使われますが、マルハナバチの巣は長くても春から晚秋までしか使われず、その巣の女王は秋までに死んでしまいます。女王が死ぬ前に新しい女王が生まれ、雄蜂と交尾したあと、土の中でも単独で冬を越します。



背中に付いた花粉を中脚でかき集める
トラマルハナバチ

マルハナバチは実際に多くの花から餌を採りますが、身近な植物ではキイチゴ類、オドリコソウ、ツツジ類（ドウダンツツジを含む）、エゴノキ、シロツメクサ・ムラサキツメクサ、ギボウシ類、ツリフネソウ、アザミ類などでよく見られます。アザミのような花の上では、ひとつひとつ花に口を挿し込んで蜜を吸っていく様子をゆっくり観察できます。ハマナスやシモツケの花の上では、歩き回って花粉を体に付ける様子を見ることがあります。体中に花粉が付くと、蜜を少しだけ吐き戻して、脚で体をぬぐって、後脚の平らな所に花粉を集めて団子（左ページ参照）をつくります。蜜は自分のエネルギー源とするほか、巣に持ち帰った蜜や花粉は巣の中の仲間、特

に幼虫の餌となります。

ミツバチやマルハナバチのよう

に、花から餌を採つて暮らしている虫は、花粉を運ぶことで植物の繁殖を手助けしています。地球上に生育する植物の多くは、ハチ類などの虫が花粉を運ばないと繁殖できません。果樹や野菜などにも実りに虫の活動が欠かせないと繁殖できません。花粉を運ばないと繁殖できません。ハチ類がたくさん知られています。

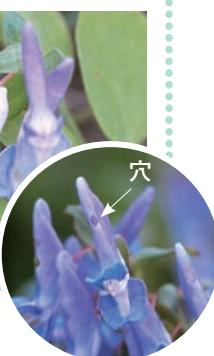
マルハナバチもミツバチも、ズメバチのように刺すハチの仲間です。ただ、よほどのことがなければハチの方から攻撃してくることはありませんので、特に花に訪れているところなどはゆっくり観察できます。ただし近づきすぎると、逃げてしまします。特に春先の女王は敏感です。



このハチは何を
しているでしょう？



答えは35ページ



よく見かけるミツバチとマルハナバチ

日本で見られるミツバチは2種（セイヨウミツバチ含め）、マルハナバチは17種（セイヨウオオマルハナバチ含め）。

※ミツバチとマルハナバチは一般に女王が大きく、働き蜂が小さい。働き蜂は同じ巣内でも体のサイズに大きな違いがある。



ニホンミツバチ

体長（働き蜂）: 10~13mm 分布: 本州・四国・九州／全体的にくすんだ色合いのミツバチで、セイヨウミツバチに比べて自然度の高い地域で見られる。



セイヨウミツバチ

体長（働き蜂）: 10~13mm 分布: 各地で飼育されているため、全国で見られるが、定着しているのはスズメバチのいない小笠原のみとされる／ニホンミツバチに比べると一般に黄色味の強い色合いをしている。



トラマルハナバチ

体長（働き蜂）: 12~17mm 分布: 北海道（ただし別亜種）・本州・四国・九州／コマルハナバチと並んで日本各地で見られる。口が長く、胸部の鮮やかなオレンジ色が特徴。



コマルハナバチ

体長（働き蜂）: 10~15mm 分布: 北海道（ただし別亜種）・本州・四国・九州／日本で最も広く分布するマルハナバチで、都市部でもよく見られる。全体的に黒く、お尻だけオレンジ色。毛が長く、ぼさぼさした感じに見える。



オオマルハナバチ

体長（働き蜂）: 13~18mm 分布: 北海道（ただし別亜種）・本州・四国・九州／コマルハナバチと比べると北日本や山間部に多い。全身黒でお尻がオレンジなのはコマルハナバチと同じだが、胸とお腹に肌色の帯がある。コマルハナバチより大型。



クロマルハナバチ

体長（働き蜂）: 15~20mm 分布: 本州・四国・九州／北日本では平地に、西日本では山間部で見られる。色はコマルハナバチによく似るが、毛足が短く、黒がより濃い印象。体長、形はオオマルハナバチに似る。

マルハナバチ国勢調査協力のお願い

それぞれのマルハナバチの生息状況は、実はあまりよく分かっていません。基本的には寒い所に多いハチですので、これから温暖化の影響を受けることも心配されています。そこで、マルハナバチ国勢調査グループでは、撮った写真（GPSデータ付き）を投稿できるサイトを開設して、皆さんからの情報を寄せただくことで一緒に日本のマルハナバチを調べるプロジェクトを進めています。詳しくは下記ウェブサイトをぜひご覧ください。

<http://meme.biology.tohoku.ac.jp/bumblebee/>

間違えられやすいクマバチ



クマバチ（キムネクマバチ）は、よくマルハナバチと間違われます。よく観察すると、
①頭部が大きい
②胸部は黄色でトラマルハナバチに似るが、トラマルハナバチは色が薄い
個体もオレンジがかる

③腹部は長く、毛が少なく、節が明瞭。腹部が長いため、
全体的に細長い印象
④翅はかなり黒いなどの違いがあります。

日本自然保護協会会員募集中！

お問い合わせはTEL: 03-3553-4101 Eメール: nature@nacsj.or.jp
このページは、筆者の方に教育用のコピー配布をご了解いただいております
(商用利用不可)。 <http://www.nacsj.or.jp/katsudo/kansatsu/> からPDFファイルがダウンロードできます。自然観察会などでご活用ください。

EPSON
EXCEED YOUR VISION

本コーナーは、エプソン純正カートリッジ引取回収サービスを利用されたお客様のポイント寄付によるご支援をいただいております。